

令和8年度 研究推進計画

1 学校教育目標

夢や目標をもち、主体的に学び続ける児童の育成

2 研究概要

(1)研究主題

自立した学び手の育成(三年目)
～単元内自由進度学習の視点を取り入れた一斉学習の在り方～

- ・令和6年度 単元内自由進度学習の単元開発
- ・令和7年度 単元内自由進度学習と一斉学習を行き来する授業づくり
- ★令和8年度 単元内自由進度学習の視点を取り入れた一斉学習の在り方

(2)主題設定の理由

I 今日の教育課題から

近年、生産年齢人口の減少や、絶え間ない技術革新により社会構造が大きく変化しており、予測困難な時代を迎えようとしている。これからの未来の担い手である子供たちには、様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して多様な情報の中から、情報を取捨選択し、新たな価値につなげて課題を解決していくことが求められている。

II 育成したい資質・能力から

本校の教育目標である「夢や目標をもち、主体的に学び続ける児童の育成」を具現化するために、「アイデンティティ」「自発性」「コミュニケーション能力」を育てたい資質・能力として設定した。

全ての教育活動を通して、夢や目標、自分のよさ、自分の得意などについて自分の言葉で表現できる「アイデンティティ」を確立させる。また、主体的に学び続ける児童を育成するために、自ら課題を発見し、学習の進捗管理をしながら自らの学びを調整していく「自発性」と、他者と協働的に学びを深めていくための「コミュニケーション能力」の育成を図っていく。

III 本校の考える「自立した学び手」とは

- 基礎学力を身に付けている。
- 自ら課題を解決する方法を身に付け、能動的に学んでいる。
- 家庭学習の習慣を身に付け、授業との学びの行き来を意識している。
- 三つの資質・能力を身に付けている。

IV 児童の実態から

本校の児童の実態として次のようなことが挙げられる。①不登校傾向の児童がいる②特別な支援を要する児童が各学年数名いる③学力差が大きい④規範意識が身に付きづらい

このようなことから、一昨年度、広島県教育委員会の事業「特別支援教育の考え方を生かした個別最適な学び推進プロジェクト」(以下、特プロ)を受け、資質・能力「アイデンティティ」「自発性」「コミュニケーション能力」を育成するために、単元内自由進度学習の単元開発を通して、児童が主体的に学び続ける授業づくりに取り組んだ。そして、昨年度は、特プロのフォローアップ事業を受け、「単元内自由進度学習と一斉学習を行き来する授業づくり」に取り組んだ。

昨年度の評価指標による調査では次のような結果が見られた。

評価項目		評価内容	評価指標	結果
(1) 授業評価	① 児童評価	a)よくわかった(理解度)	肯定的評価 (90%以上)	a)97.6%
		b)自分のペースで学習できた(満足度)		b)89%

		c)またやりたい(主体性)		c)89%
	②指導者評価	学びの変革授業評価表	4段階評価の平均3以上(80%以上)	7月 90% 12月 94%
(2)③定期的な質問紙評価		ScTN(7・12月調査) a)他の人と一緒に学ぶとき、自分の得意を生かしたり、苦手を補ってもらったりしながら学習を進めることができる。(アイデンティティ)・・・問⑰ b)学んでいて解決できるか分からない問いや課題に出合ったとき、挑戦したり失敗したりすることを楽しめる。(自発性)・・・問⑱ c)授業では、他の人の考えや意見を自分の学びに生かしている。(コミュニケーション力)・・・問⑧	5段階評価の平均4以上(80%以上)	7月 a)76% b)74% c)77% 12月 a)93% b)91% c)92.5%
(3)④学力調査による評価		全国学力・学習状況調査(4月) 標準学力調査(1月)	全国平均越え90%以上	全66.6%

①と②の結果から、児童は単元内自由進度学習に前向きに取り組み、自分なりに理解を深めたことが分かる。単元内自由進度学習を経験した学年では、学び方を理解しており、さらに自分の学びに合ったものを選択したり自分なりに学びを深めたりできていることが考えられる。一方で、④の結果から、学力に課題が見られる。特に算数科においては基礎的学力が低く全国平均を超えた児童が66%と学校の3分の2となっている。このことから、単元内自由進度学習で、学びを調整したり、主体的に学びを進めたりすることができる児童の数は増えたが、残りの一斉学習が充実しておらず、十分な学力が身に付いていないことが分かる。

IV 昨年度の成果(○)と課題(●)

- ICTの活用技術は児童・教師共に長けている。
- 授業者は児童が選択肢を持てるような授業づくりのアイデアを出すことができた。
- 児童が「自分で選択して学習を進める経験」をどの学年でも経験することができた。
- 児童が自己の学びについて計画性をもち、めあてに対して振り返りをするようになった。
- 教師の授業の見とり方が「子どもを主体とした目線」で話し合えるようになっている。
- 教師は、「めあて・学習課題・まとめ・振り返り」を住み分けた思考力・表現力を高める授業スタイルで、教科を限らず授業をすることを意識できるようになった。
- 学年によっての学級集団作りの差が大きく、一部の児童だけが話したり、学習に意欲がもてなかったりする児童の実態があり、心理的安全性が確保された集団にはなり切れていない。
- 個々もしくは学年団で単元全体を見通した教材研究をしたに留まり、研究範囲が広い分、全体で研修を深めることには難しさがあった。
- 思考ツールの活用ができる学年は限定的である。
- 自由進度学習の授業準備に膨大な時間がかかり、担任の負担感が大きかった。
- 単元内自由進度学習の環境づくりのため、学習期間中は特別教室を使うことができなかった。
- 基礎学力の定着と、学習規律の定着に課題がある。

そこで、今年度はこれまで実践してきた「単元内自由進度学習で得た児童への選択肢の持たせ方、児童の自己決定を尊重した授業の展開」の視点を取り入れた一斉学習の在り方に重点を置いた研究を推進する。特に、本校の児童の学力的・児童実態的課題の大きい算数科に焦点を当て、児童が

「数学的な見方で見通しをもって選択肢を見出し、学習の課題の解決法を選択・自己決定をして課題の解決を図ることで、自分で学ぶ能動的な学び手を目指す一斉学習の在り方」の研究に取り組むこととした。

3 研究仮説

単元内自由進度学習の視点を一斉授業に取り入れて、算数科の授業づくりに取組めば、児童は、「自分で課題を解決する方法」を身に付けることができ、基礎的な学力の向上や数学的な見方考え方を発展させて能動的に学ぶ子が育つであろう。

4 具体的構想

(1)安心して学習に取り組むための学習土台づくり

- ① 心理的安全の保たれた学習集団づくり(その上で児童と合意のある学習規律の創造)
- ② ICT 機器の効果的な活用
- ③ 教師の教材研究力の向上

(2)特別支援教育の視点を取り入れた一斉学習(意図的な協働的な学びを設定した授業スタイル)

選択肢と自己決定のある一斉学習を取り入れることで、児童が自分の得意を生かし主体的に学ぶことにつなげる。また、指導者が、「めあて」・「学習課題」・「まとめ」・「振り返り」を意識し、協働的な学びのある授業づくりをすることで、学校課題である思考力・表現力を意図的に高める。

① Google Classroom の活用

学習の流れを視覚化し見通しを持って学習に取り組んだり、思考ツールを使って得た情報を整理・分析したりできる。

② 「めあて」「学習課題」「まとめ」「振り返り」を明確にした授業

※5 授業モデルの項目を参照

③ 学習環境の充実

単元内自由進度学習で行った、児童のつまづきを予想して、教材研究でどのような手立てがあれば、全ての児童が学ぶことができるかについて考え、必要な教具・環境を用意することで、多様な学びの選択肢をもたせる。

(3) 単元内自由進度学習(個別最適な学びとゆるやかな協働のある授業スタイル)

児童の主体性を伸ばすことを目的とした学習方法で、どんどん学習を進めたい児童やこつこつとスモールステップで学習を進めたい児童が自分のペースで学べるように環境を整える。

① 学びの進捗を調整する力を付ける学習の手引き

「何のために学ぶのか」、「何を学ぶのか」、「何時間で学ぶのか」、「困ったときにどうすればよいのか」といった単元計画を学習の手引きとして子供たちと共有する。

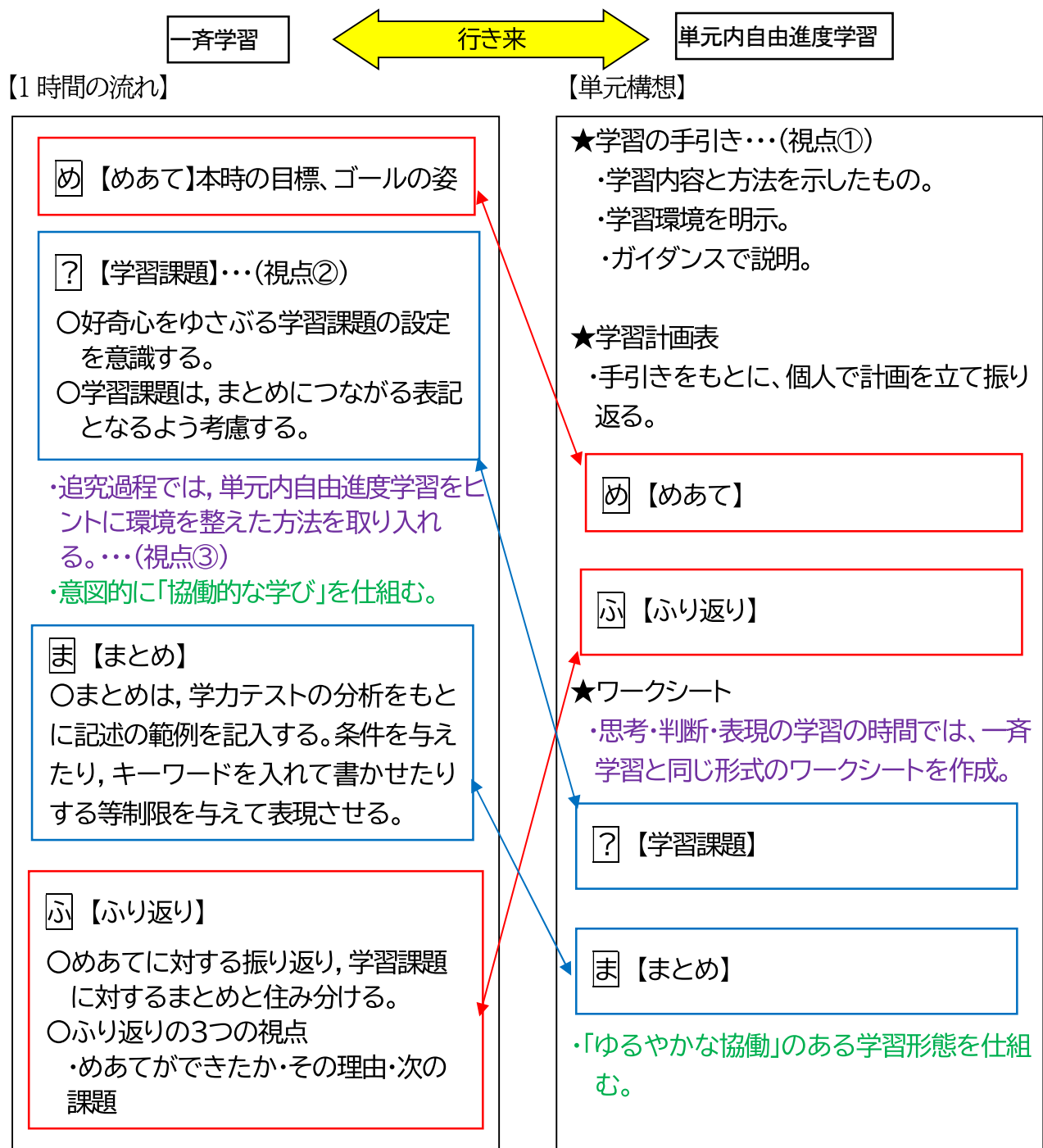
② 多様な学びの選択肢の提供

児童の興味・関心や能力・特性等に応じた多様な学びの選択肢を提供することで、児童は自分の学びを調整することができる。

③ 学習環境を整える

これまで直接指導してきたことを学習コーナーとして環境に置き換えることで、児童が自分の学びを調整できるようにする。

5 授業モデル



【一斉学習に取り入れられる単元内自由進度学習の視点】

- (視点①)学習の手引き【単元計画】を児童と共有し、単元全体を見通しを持って学ばせる。
 (視点②)その時間に解決する問いを明確にし、必要であれば自分の言葉で説明・表現することができる活動を設ける。
 (視点③)学習環境を整え、口頭で指示・指導していたことを環境にすることで、必要な時に何度でも立ち返って学習できるようにする。

【例】

- ・前学年の学習内容を掲示しておく。

- ・三角形と四角形を弁別する時に、語句の確認が難しい場合に、カードゲームで三角形と四角形の弁別を行ってから、プリント学習に進められるようにする。
- ・測定につかう正しい用具を選ぶときに、巻き尺やものさしを実際に使ってどの道具を使って測ったらよいか考えられるようにする。

6 評価について

評価項目		評価内容	評価指標	備考
(1)授業評価	①児童評価	フォームでの回答 A)今日の⑦や⑧を理解し、見通しを持って授業に参加できた。 B)自分に合った学び方を選択して学ぶことができた。 C)友達と話し合っ、自分の考えを深めたり広げたりできた。 D)自分の学習を調整し、粘り強く学習を進めることができた。	4段階評価の3以上【肯定的評価の割合】 (90%以上)	改善
	②指導者評価	学びの変革授業評価表 A)学習課題を自分事として捉え、見通しを持って授業に参加している。【自発性】 B)自分に合った学び方、教材、学習時間などを選択して学んでいる。【アイデンティティ】 C)友達と話し合ったり、異なる視点から考えたりして、自分の考えを深めたり広げたりしている。【コミュニケーション】 D)自分の学習を調整し、粘り強く取り組んでいる。【自発性】	4段階評価の3以上【肯定的評価の割合】 (90%以上)	継続
(2)学力調査による評価		全国学力・学習状況調査(4月) 標準学力調査(1月)	全国平均越えた教科・学年の割合 90%以上	継続

昨年度の授業評価の方法について、煩雑な面が見られたため、次の2点で整理し、評価の明確さ・妥当性を高めることにした。

- ・①②について、広島版学びの変革授業評価表(甲山小版)の視点でそろえる。
- ・児童と指導者が共通の項目で評価することで比較ができる。